

# 結 果 報 告

大会名	平成28年度第68回日本ハンドボール選手権大会				
競技日	12月24日(土)	試合番号	ナ	回戦	準決勝
種別	男子・女子	会場	茨城八王子・駒沢体育館		
Aチーム			Bチーム		
大崎電気			大同特殊鋼		
得点合計	小計		小計	得点合計	
24	10	前半	14	23	
	14	後半	9		
		第1延長(前半)			
		第1延長(後半)			
		第2延長(前半)			
		第2延長(後半)			
		7mTC			

## 【 戦 評 】

記載者氏名

菊地 知男

準決勝第一試合は日本選手権において最多優勝回数14回を誇る大同特殊鋼とそれに次ぐ12回を数える大崎電気の強豪チーム同士の対戦、9月の日本リーグでは大崎(暫定3位)が大同(暫定首位)を下している。

開始早々、久保の速攻で先制した大同が、野村・東江のミドル、藤江のカットインなどで優勢に試合を運ぶが大崎は東長濱の鮮やかなミドル、小澤・岩永の速攻で対抗し、序盤は互角の展開となる。中盤以降、大同は千々波、朴を中心とする固いDFで大崎の得点を許さない。一方の大崎もGK木村の好セーブで失点を抑える。残り5分を切って大同は久保の速攻、東江の得点でペースを掴む。前半は大同が大崎に4点差をつけて終了。

後半は序盤、大崎が小室、東長濱の連続速攻、さらに宮崎の得点で追い上げ、大同は東江が7mとミドルで得点を重ねる。中盤以降は双方強いDFと大崎木村、大同久保の両GKの好守が光り、失点が少ない展開になる。終盤、大崎は23分過ぎに元木と植垣のカットインシュートで20-21と1点差に詰め寄る。その後大同は千々波の執念のポスト、東江のミドルで得点を重ね、大崎は宮崎の鋭いジャンプシュートと小澤のサイドシュートで1点差のまま、残り80秒で大同が退場者を出す。大崎は東長濱が残り25秒で同点、さらに残り1秒で決勝シュートを放ち、大崎が劇的な逆転勝利を収めた。